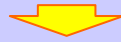


17 たざわこかくのだて
田沢湖・角館

(秋田県仙北市)

注目ポイント！

秋田新幹線、秋田自動車道開通効果の定着後、近年、映画・TVの舞台としてメディア露出や、「体験学習」の受入れなどにより観光客が再び増加。



観光客数が約480万人から約630万人に増加！
(平成8年) (平成16年)



角館さくら祭り

コラム

佐藤氏は、角館町商工観光課でフィルムコミッションの設立に携わり、周辺町村や県内ロケの支援体制づくりに奔走し、人気映画ロケの誘致に成功。その後も映画、TV、CMの舞台として数多く取り上げられ角館、田沢湖の魅力为全国に広め、横ばい傾向だった観光客数の回復につなげた。

合併後も、まちづくりや体験学習など各地の団体と連携して、観光客を「10年後に1,000万人」という目標を掲げ、先頭に立って活躍している。



仙北市観光課長
佐藤 強氏

これまでの経緯

- 昭和49年(1974) 角館シダレザクラ153本が国指定天然記念物に指定される。
- 昭和50年(1975) 桧木内川のソメイヨシノ約2km区間が国名勝に指定される。
- 昭和51年(1976) 角館武家屋敷約7haが重要伝統的建造物群保存地区に選定される。
- 平成9年(1997) 秋田新幹線開業(東京～田沢湖間 2時間57分)、秋田自動車道が全線開通する。
- 平成14年(2002) 「かくのだてフィルムコミッション」設立。
映画、ドラマ、旅番組、CM等の舞台となり全国的なPR効果大。
- 平成17年(2005) 田沢湖町、角館町、西木村が合併し「仙北市」誕生する。

主な取り組み

「心休まる道」 武家屋敷通りの整備復元

武家屋敷が重要伝統的建造物群保存地区に選定され修理修景が進んだことから、知名度が上がり観光客のほか交通量も増加。そこで県の代替路整備を契機に、学識者・関係機関・地区町内会等からなる検討会を経て、歴史的町並みを整備・復元。さくら祭や秋の「お祭り」では歩行者専用にしてイベントも開催。

藩政時代の落ち着いた佇まいが映画やTVで度々全国放映されるなど、四季を通じて観光客が訪れている。



角館武家屋敷通り

「パンフレットには載ってない」 歴史のまちを御案内

まちづくり団体が期間限定のイベントとして始めたものを組織化し、「かくのだて歴史案内人組合」を設立。観光客に武家屋敷や蔵が多く残る商人町の歴史、風土など観光情報誌に無い魅力を加えて案内。冬期は武家屋敷で囲炉裏を囲んでの「昔語り」を加えたり、観光ツアーに組み込まれるなど、利用者は10年目で5万人。



「歴史案内」

「花紀行」観光シーズンの幕開け

旧3町村には角館の桜、田沢湖町の水芭蕉、西木村のカタクリと3つの花の名所があり、地元団体が環境整備や花祭を実施。また、合併前から広域観光協議会が田沢湖乳頭温泉～JR駅～3地区を巡る「花紀行バス」を運行。

合併後は各地の開花状況、アクセス案内等の情報を一体的に提供するHPを開設。H18は過去最高の人出を記録。



刺巻湿原の水芭蕉群生地

大人も子供も「大事なこと」が体験できる

田沢湖地区は「体験型」修学旅行の先進地区。田植え・稲刈り、林業、酪農、伝統工芸など多彩な受入体制が好評。中学生を中心に北海道・東北・首都圏から学生が多数訪れ、数年先



農業体験の田植え

まで予約が埋まる。また古い木造分校を復元し写真展、山菜教室、音楽会等を「授業」として開催する「瀧分校」には木造校舎で学んだ中高年世代が懐かしさを求めて訪れ、田沢湖と角館を巡る観光バスも運行。

これらは、全国的にも例の少ない、一つの町で2人も選ばれた「観光カリスマ」(田口久義氏・佐藤和志氏)を中心に地域が協力し運営。スキー客の落込みが激しかった同地区の観光客数増加に大いに貢献。

問い合わせ先

仙北市産業観光部観光課

Tel : 0187 - 43 - 3352

<http://www.city.semboku.akita.jp/>